

事務事業マネジメントシート

【 評価年度： 令和 7 年度 】

事務事業の概要・基本情報

事務事業名	声の広報発行事業			会計区分	1	一般会計	所管部署	福祉課							
事業番号	6210			予算科目	3	款 1 項 14 目 民生費									
事業区分				政策的事業【任意】 □ 重要事業			シート入力	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度					
評価の種別	☒ 詳細評価 □ 簡易評価（事業の概要・結果のみ）						所属長名	米湊	米湊	米湊					
総合計画での位置づけ	基本目標	健康福祉都市の創造					担当責任者	島川	松本	松本					
	基本施策	心の通った社会福祉の推進													
根拠法令等	障害者総合支援法、伊予市声の広報等発行事業要綱														
関係する計画等	伊予市第3次障がい者計画														
事業の目的【ゴール】	対象	文字による情報入手が困難な者									事業担当者				
	意図	文字による情報入手が困難な人のために、音声による情報提供を行う。													
目指すべき姿を簡潔に											事業開始年度	☒ 平成 17 年度 ☐ 令和 ※合併前からの継続事業は平成17年度と入力			
事業内容【アクティビティ】	広報いよし等をカセットテープに音声録音して、公民館等に配布する。											事業終了年度（予定）	令和 年度(予定) ☒ 設定なし		
具体的な内容、どのような方法で実施しているのか															
事業の実施方法	☐ 直営 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金・負担金等 ☐ その他（ ）														
連携事業及び関連事業の有無	☐ あり（以下に記載すること） ☒ なし										【連携事業】 一体的に実施している事業 【関連事業】 関係が深い事業				
	事業番号	事務事業の名称			事務事業の概要										
本事業とSDGs（持続可能な開発目標）との関連性	☐ ゴール 1	貧困をなくそう			☐ ゴール 7	エネルギーをみんなに そしてクリーンに			☐ ゴール 13	気候変動に具体的な対策を					
	☐ ゴール 2	飢餓をゼロに			☐ ゴール 8	働きがいも経済成長も			☐ ゴール 14	海の豊かさを守ろう					
	☒ ゴール 3	すべての人に健康と福祉を			☐ ゴール 9	産業と技術革新の基盤をつくろう			☐ ゴール 15	陸の豊かさを守ろう					
	☐ ゴール 4	質の高い教育をみんなに			☒ ゴール 10	人や国の不平等をなくそう			☐ ゴール 16	平和と公正をすべての人に					
	☐ ゴール 5	ジェンダー平等を実現しよう			☐ ゴール 11	住み続けられるまちづくりを			☐ ゴール 17	パートナーシップで目標を達成しよう					
	☐ ゴール 6	安全な水とトイレを世界中に			☐ ゴール 12	つくる責任つかう責任									

前回評価の振り返り

評価年度 令和 4 年度	事業遂行に係る課題・改善点	課題解決に向けた具体的な方策等	左記に対する対応状況
最終判断 現状維持	音読グループと連携して声の広報等を発行し、文字による情報入手が困難な方に情報を届ける。	⇒ 適正に声の広報を発行し、市内各所に配布する。また、窓口で必要な方に案内する。	⇒ 広報いよしと、社協だより、議会だより、川柳や書籍などを音読録音したものを市内各所へ提供して情報を届けた。また、音読グループの活動をいよし広報で紹介し、新規利用者や会員を募る周知啓発を行い利用者の拡大に努めた。

事業活動への投入コスト・人員【インプット】

予算額・執行額及び財源内訳（千円）						事業費の内訳							
項 目		R 4 実績	R 5 実績	R 6 実績	R 7 要求	節	細 節	事業費（千円）				摘 要 ※代表的なものを簡潔に	
								R 4 実績	R 5 実績	R 6 実績	R 7 要求		
予 算	当 初 予 算	100	100	120	120	例 年 支 出 の あ る も の 臨 時 的 な も の	委託料	100	100	120	120		
	補 正 予 算	0	0	0	0								
	前年度から繰越	0	0	0	0								
	予 備 費 等	0	0	0	0								
	計	100	100	120	120								
決 算	執 行 額	100	100	120									
	翌年度へ繰越	0	0	0									
財 源 内 訳	国庫支出金	30	29	34	60								
	県 支 出 金	15	16	17	30								
	地 方 債	0	0	0	0								
	そ の 他	0	0	0	0								
	一 般 財 源	55	55	69	30								
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%									
当初予算＋補正予算に 対する執行額の割合（％）		100.0%	100.0%	100.0%									
正規職員の人工数		0.08	0.08	0.08									
1人当たりの人件費単価		7,794	7,765	7,895			上記以外の事業費合計		0	0	0	0	一般事務費、上記で書き表せないもの
※ 執行額＋人件費		724	721	752			事業費の総計		100	100	120	120	

事業活動の実績【アウトプット】

活動指標	活動実績の達成度を測る指標		単位	目指す 方向性	R 4	目標 実績	R 5	目標 実績	R 6	目標 実績	達成度		令和 4 年度の振り返り	令和 5 年度の振り返り	令和 6 年度の振り返り								
	指標 ①	声の広報テープ作成延べ本数	本		200		200		200		かなり達成 (80%以上)	活動成果 や課題等	相談支援専門員や窓口で、声の 広報が必要な方へ周知した。	いよし広報に音読グループの活動 紹介の特集を掲載し、声の広報の 周知啓発をはかった。	声の広報カセットテープを、点字図 書等と併せて図書館に引き続き設 置した。								
					180		180		168														
	指標 ②															課題への改善 提案							
	指標 ③																						
指標 ④																							

事業活動の成果【アウトカム】

成果指標	想定される事業活動の成果		活動成果の達成度を測る指標		単位	目指す方向性	R	4	目標実績	R	5	目標実績	R	6	目標実績	達成度	左記の指標が設定できない場合は、事業実施によって評価期間内に発現した定性的な成果を記入
	短期成果	視覚障害者等が必要な情報が得られる	指標①	声の広報の配布箇所・利用者延べ件数	件		200			200			200			かなり達成 (80%以上)	
							180			180			180				
			指標②														
			指標③														

事務事業の評価

所管における事務事業の評価	自己判定	妥当性	目的の妥当性	4 上位施策の達成に不可欠な事務事業であり、事業の目的を見直す必要はない 3 上位施策の達成に必要な事務事業であり、事業の目的を見直す余地が少ない 2 上位施策の達成に必要な事務事業であるが、事業の目的は検討の必要がある 1 上位施策の達成向け、事業の目的は見直しが必要である	3	評価点ランク		A	事業遂行に係る工夫点・事業成果		
			市民・社会ニーズへの対応	4 市民ニーズ・社会ニーズの有無に関わらず、実施する必要がある 3 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが増加傾向にある 2 全体的な市民ニーズ・社会ニーズが現状維持傾向にある、又は、市民ニーズ・社会ニーズが限定的である 1 市民ニーズ・社会ニーズが減少傾向にある、又は、市民ニーズ・社会ニーズが曖昧である		S	11 ~ 12				
			サービス主体の妥当性	4 本事業は市が直営で実施すべきものである 3 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、適切に導入している 2 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきで、導入の範囲に検討の余地がある 1 本事業の一部、又は、全部に民間活力を導入すべきだが、導入できていない		A	9 ~ 10				
		有効性	成果指標の達成状況	4 目標を上回って達成できた（100%以上の達成） 3 概ね達成できた（80%以上の達成） 2 やや達成がでなかった（50%以上の達成） 1 達成できなかった（50%未満の達成）	4	評価点ランク			A	事業遂行に係る課題・改善点	
			成果向上の可能性	4 既に相応の成果を得ているが、今後も成果向上の余地がある 3 成果向上が期待でき、事業継続の必要がある 2 成果は低調であるが、手法等の改善によって成果向上の余地がある 1 今後の成果向上は見込めない		S	11 ~ 12				
			市民等への影響	4 本事業がなくなると、不特定多数の市民・団体等に重大な影響がある 3 本事業がなくなると、特定の市民・団体等に重大な影響がある 2 本事業をなくしても、市民・団体等への影響は少ない 1 本事業をなくしても、市民・団体等への影響はほとんどない		A	9 ~ 10				
		効率性	手段の最適性	4 現状では最善の手段であり、他の手段を検討する必要はない 3 他の手段もあるが、現状の手段が望ましく、改善の必要性は低い 2 現状の手段が望ましいとは言えないため、他の手段も検討すべきである 1 現状の手段ではなく、他の手段に変更すべきである	3	評価点ランク			A	課題解決に向けた具体的な方策等	
			コストの最適性	4 コストの削減・効率化の成果により、これ以上、改善の余地はない 3 コストの削減・効率化を適切に進めており、改善の必要性は低い 2 コストの削減・効率化に努めているが、成果が十分ではないため、積極的な改善が必要である 1 コストの削減・効率化の成果が全く得られておらず、抜本的な改善が必要である		S	11 ~ 12				
			受益の適正性	4 事業の性質上、受益者負担を求めるものではない 3 公平なサービスを提供し、適正な受益者負担を求めている 2 ある程度の公平なサービスを提供しているが、受益者負担には見直しの余地がある 1 対象者に偏りがあるなど公平なサービスとはいえない、又は、ある程度の公平なサービスを提供しているが受益者負担をしていない		A	9 ~ 10				
	担当者					B	7 ~ 8		身体障害者手帳をもつ視覚障害者等に対し事業を周知し、希望者に定期的に声の広報を配布する。		
	一次判定	自己判定結果の確定			☒ 上記のとおり自己判定を確定し、本結果を踏まえて以下のとおり貢献度・重要度を判定します			所属長の所見			
		貢献度	S 市政全体の成果向上に与える影響が、非常に高い事務事業 A 上位施策の成果向上に与える影響が、高い事務事業 B 上位施策の成果向上に一定の影響をもつ事務事業 C 上位施策の成果向上に直接的な影響は弱い事務事業 D 当初位置付けた必要性が薄れており、事業推進が期待できない事務事業 ※既に休止・廃止が決定している事務事業も含む	判定区分	S	非常に高い	A				
			重要度		S 市政全体からみても、重要度が非常に高いと判断される事務事業 ※自然災害等の緊急事態に対応する事務事業も含む A 上位施策の観点からみても、重要度が高いと判断される事務事業 B 上位施策への貢献度も踏まえ、目標の達成に向けて現状の計画に沿って推進していく事務事業 C 上位施策への貢献度も踏まえ、統合・縮小を検討すべき事務事業 D 上位施策への貢献度も踏まえ、休止・廃止を検討すべき事務事業 ※既に休止・廃止が決定している事務事業も含む	A				高い	
	所属長				B	普通	A				
			C		低い						
			D		非常に低い						